

## 同行者が感じたこと

### 笑顔の大切さ学んだカンボジア

南日本新聞社 文化生活部 記者

山田 天真

「コミュニケーションで最も大切なのは笑顔」。今回の旅で一番実感したことだ。2度目の海外で、ホームステイは初体験。事前研修でカンボジア語を少し学んだとはいえ、実際にホームステイ先のタトラヴ村に入ると、ほとんど言葉が出てこない。初日はもどかしさとこれからの村での生活に不安が募った。

ホストファミリーも会話が通じない私に苦労を感じたことだろう。だが、常に笑顔で根気よく接してくれたおかげで、私自身は気持ち的にかなり楽になれた。時間の経過と共にお互いの言いたいことが少しづつ分かるようになると、笑顔も増え不安は消えていった。「笑顔さえあれば、海外でも何とかなる。万国共通の“言葉”」との思いを強くした。

私と同じような不安を抱えていた団員も、少なくなく、かたのように思う。村に向かうバス内では顔がこわばり、ホームステイ2日目の朝も浮かない表情を見せていた。だが日ごとに笑顔が増え、取材にもホストファミリーとの日々を楽しそうに話してくれるようになった。成長していく姿を間近で見ることができ、頼もししさを感じずにはいられなかった。

カンボジアについては発展途上国という漠然としたイメージしかなかったので、都市部と農村部での大きな経済格差があることも知れてよかった。訪問時はデング熱が大流行。亡くなる人もいる中、訪問したシンポンのオーオンバル小学校でも複数の児童が発症していることを聞いた。レット・パーン校長の「ここでは重度の人を処置できる医療機関がなく、時間をかけて都市部に行くしかない。亡くなるのはきまって処置の遅れた田舎の人。近くに立派な医療機関があれば」という切実な思いは心に響いた。途上国と一言でいっても、「地域ごとに事情は異なり、求められる支援は違う」ことを思い知らされ、自分の目で現地を見ることの大切さを学んだ。

「ポル・ポトは悪い人じゃなかった。やり方はまずかったけど。」といった現地の人の声を紹介してくれた青

年海外協力隊の深町菜摘さん（青少年活動支援）の話も興味深かった。あれだけ残虐なことをして非難すべき人物という認識が強かつただけに、立場、地域が変われば見方がここまで変わることに衝撃を受けた。現地の学校では、ポル・ポト政権時代のことはほとんど教えず、大人たちも子どもに積極的に教える雰囲気はないという。わずか40年ほど前の話で、悲惨なことを思い出したくないといった意向もあるのだろう。そうした状況にもかかわらず、「事実は事実として伝え、受け止め方は子どもたちにまかせたい」との思いで何とか教材として扱おうと、学校現場で試行錯誤する深町さんの姿はまぶしかった。

今回の旅は、日本との生活習慣、文化の違いに驚き、就寝前にいろいろと自問自答する時間を持てた。「幸せとは何なのか」「国際協力とは」—。日本に戻ってからも、いまだに考え続けている自分がいる。人生観を変える貴重な経験となった。つたない取材に毎回誠実に対応してくれた団員の皆さん、そしてカンボジアの人たちに感謝したい。オーチン。



ホストファミリー 本人：左



取材風景 本人：右

## 驚きばかりのカンボジア

KTS鹿児島テレビ放送 報道部 記者  
高吉 友佳

「カンボジア出張！？」上司の突然の打診に、二つ返事とはいきませんでした。海外に行くのは10代ぶり…（※現在30代です）ほとんど何も知らないカンボジアの、しかも農村でのホームステイ。私で大丈夫だろうか？初顔合わせまでは不安でいっぱいでした。

しかし、鹿児島での3日間の事前研修で団員の皆さんと過ごし、一生懸命カンボジアのことを知ろうとする姿や個性豊かで元気な様子に不安はすっかりなくなりました。

鹿児島から韓国経由で約6時間。首都・プノンペンの空港に着陸するやいなや、機内で流れるゆったりとしたカンボジアの伝統音楽が一行の到着を出迎えてくれました。外に出て感じる東南アジアのイメージ通りの蒸し暑さとあちこちから聞こえるクメール語に、随分遠くまで来たなあと心が躍ります。この時「甘いにおいがする！日本とは違う！」とうれしそうに話しかけてくれた団員がいたのに、鼻が詰まっていたのかわからなかったのが悔やまれてなりません！

カンボジアの景色は全てが新鮮でした。縦横無尽に走る車、見たことのない鮮やかな果物を道ばたで売る人…気が付けば四六時中カメラを回していました。

ホームステイ先での生活も驚きの連続です。部屋の中で荷物を整理していると、放し飼いの鶏がスッと足元を通っていきます。床に散乱する虫の死骸は何度踏んでしまったことか…。お風呂代わりの水浴び場に虫がたかってしまった日には、囲いも何もない野外で水浴びをした日もありました。しかし「住めば都」とはのこと。ホームステイ終盤にはエアコンや冷蔵庫がない暮らしにも慣れていきました。帰国後も、日常のふとした瞬間にタトラヴ村の日々を思い返してしまうほどです。

ある日の夕食時、ホストマザーが通訳を介して自分のことを話してくれました。私とさほど年が変わらないのに、夫を亡くして2人の子どもと70代の母親を1人で養っていること。朝5時から1人で水牛や鶏の世話をし、米やネギを栽培し、日中はバイクで村を出て一人でスイーツを売る。新しい夫が子どもに暴力を振るうのが怖いからと再婚は諦めていること…。自分のことだけでも余裕がない普段の自分を見つめ直

すきっかけになった出来事でした。村を離れる日の朝、団員とホストファミリーの涙のお別れを撮影しに早起きした私に、ホストマザーから結婚式の写真のプレゼント。団員よりも先に自分が泣いてしまいました。

取材をしていて、何よりも団員の皆さんのが成長していく姿がとてもまぶしかったです。奄美大島の太鼓と踊りで村の人たちとつながったり、ジェスチャー得意の空手であつという間に距離を縮めたり…出国当日は「このまま飛行機が飛ばなければいいのに」なんて不安を漏らしていた団員も、最終日には「タトラヴ村に帰りたい！」と言っていたほど。大人でも難しい「国際協力」や「開発途上国」といったテーマに対して、決して背伸びせずまっすぐ向き合っている姿に、私の方が刺激を受けました。

振り返れば、私も若い頃に47都道府県に足を運んで「地方の現状をもっと知りたい、できればそれを伝える仕事がしたい」と思ったことがきっかけで、いま地元の東京を離れてこの仕事をしています。今回のカンボジアでの出会いや貴重な経験は、必ず団員の皆さん的一生の財産になると思います。素敵な8日間に同行させていただき本当にありがとうございました！



ホストファミリーと 本人：中央



地元の小学生とのお別れ 本人：中央

# 新聞記事

南日本新聞  
【令和元年6月18日(火)】

カンボジア派遣  
中高生事前研修  
県青少年国際協力体験事業  
発展途上国を訪ね国際協力について理解を深める、鹿児島県青少年国際協力体験事業の事前研修が15日、鹿児島市のかしま県民交流センターであつた。7月にカンボジアに派遣される中高生15人が初顔合わせし、現地の文化や言語を学んだ。生徒らは映像で首都ブンペンの街並みや世界遺産アンコールワットなどを見て、現地のイメージを膨らませた。「ヨムリアップ・スオ(こんにちは)」をはじめカンボジア語の



カンボジア語でのあいさつに挑戦する生徒ら=鹿児島市のかしま県民交流センター

自己紹介も、発音に苦戦しながら練習した。  
鹿児島純心女子高校3年の六反田早苗さんは「聞き慣れない言葉

で難しいけど、頑張って覚えたい。経済に興味があり、自分の目で現地を見るのが楽しみ」と話した。

派遣は21～28日。農村でのホームステイや青年海外協力隊の活動などを見学する。

(山田天真)

カンボジア派遣  
中高生14人出発  
県青少年国際協力体験事業  
発展途上国を訪ね国際協力について理解を

深める、鹿児島県青少年国際協力体験事業の事前研修が15日、鹿児島市のかしま県民交流センターア

自己紹介も、発音に苦戦しながら練習した。鹿児島純心女子高校3年の六反田早苗さんは「聞き慣れない言葉

で難しいけど、頑張って覚えたい。経済に興味があり、自分の目で現地を見るのが楽しみ」と話した。

派遣は21～28日。農村でのホームステイや青年海外協力隊の活動などを見学する。

派遣は21～28日。農村でのホームステイや青年海外協力隊の活動などを見学する。

鹿児島空港(霧島市)を出発した。28日に帰国予定。鹿児島空港で結団式があり、生徒らは見送りの保護者らを前にカンボジア語で自己紹介した。写真。鹿児島中央高校2年の前園真鎗さんは「帰ってきてから多くのことを伝えられるよう、しっかり学んでみたい」と意気込んだ。

カンボジア派遣  
中高生14人出発  
県青少年国際協力体験事業

鹿児島空港で結団式。生徒らは、世界遺産アンコール遺跡群など、海外協力隊の活動を見学したり、現地の小学

校で子どもたちと交流を深めたりする。

鹿児島空港で結団式。

南日本新聞  
【令和元年7月22日(月)】



同事業実行委員会の弓場秋信会長は「異なる文化、価値観を全て受け入れ、笑顔で交流を楽しんできてほしい」と激励した。事業は28回目で、カンボジアへの派遣は3回目。(山田天真)

# 南日本新聞 【令和元年8月1日(木)】

カンボジア派遣  
中高生帰国報告  
南日本新聞社

た。中高校生15人は21年8月の日程でカンボジアを訪問。農村部でのホームステイでは、慣れない生活に苦労しながらも異文化を受け入れていった。小学校の運動会に参加したり、内の中高校生が31日、鹿児島市の南日本新聞社を訪れ、帰国報告をして、青年海外協力隊の活動を視察したりして、國際協力の在り方を学んだ。

鹿児島県青少年国際協力事業で、県内の中学高校生15人が7月下旬、カンボジアを訪れた。言葉や習慣の違いに戸惑いつつも「スオ・スタイ(こんにちは)」と笑顔を絶やすらず、見聞を広めた中高校生たち。ホームステイや青年海外協力隊の視察を通して成長した姿を追った。(山田天真)



年、井上恵哉さんは「発展途上国であっても、

その場所なりの幸せがあることを知った」。川辺高3年の萩原華音さんは「国際協力のイメージが明確になつた。世界で活躍できる人材になることが目標」と話した。(山田天真)

本新聞社  
カンボジアからの帰国報告をする中高校生  
31日、鹿児島市の南日

スオ・スタイ  
カンボジアを中止する

鹿児島県青少年国際協力体験事業で、県内の中学高校生15人が7月下旬、カンボジアを訪れた。言葉や習慣の違いに戸惑いつつも「スオ・スタイ(こんにちは)」と笑顔を絶やすらず、見聞を広めた中高校生たち。ホームステイや青年海外協力隊の視察を通して成長した姿を追った。(山田天真)

(1)

## 学校教育



## 環境の違いに戸惑い

「男子の井上恵哉さん、女性の萩原華音さんは「発展途上国であっても、みんなが笑顔でいるのが印象的だった」と笑った。■ ■ ■

井上恵哉さんによると、「日本では、中学生になると、

# 南日本新聞 【令和元年8月17日(土)】



南日本新聞  
【令和元年8月22日（木）】



アンコールワットを訪ねた鹿児島の中高生  
＝7月25日、カンボジア・シェムリアップ州

カンボジア 散歩  
鹿児島中高生の夏

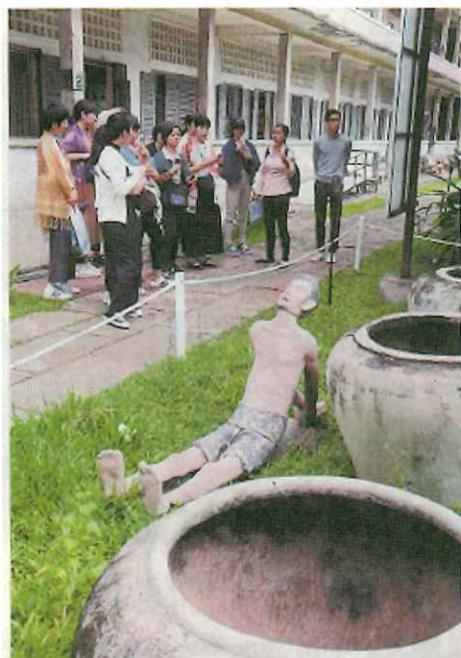
①

アンコールワットは世界文化遺産にも登録されている石造建築の寺院で、12世紀初頭に建てられた。壁面彫刻や中央祠堂（高さ6m）の壮大さと豪華美に圧倒される。

7月下旬、鹿児島県青少年国際協力体験事業で県内中高生15人と訪れたカンボジアを紹介する。（山田大真）

II 隨時掲載

壮麗な世界遺産 堪能



収容者の拷問用に使われた水がめを見つめる  
鹿児島の中高生ら  
＝7月27日、カンボジア・プノンペン

カンボジア 散歩  
鹿児島中高生の夏

②

1970年代後半のポル・ポト政権下、政治犯などの収容所だったのがトゥールスレバシテ殺戮博物館。約2万人を収容し、生き残ったのは数人程度とされる。当時の拷問器具や犠牲者の写真を展示している。

雄弁に語る負の遺産

南日本新聞  
【令和元年8月23日（金）】

# 新聞記事

南日本新聞  
【令和元年8月26日（月）】



バイクや車で混み合う市街地の道路  
〔7月26日、カンボジア・プノンペン〕

## カンボジア 散歩

鹿県中高生の

③

## バイク庶民生活の足

カンボジアの人々の主な移動手段はバイクで、日本メーカーの製品をよく目にする。免許制度はあるものの125cc以下は無免許でも構わないため、子どもの乗車や交通事故マナー違反が多く、死亡事故が後を絶たない。

＝随時掲載

南日本新聞  
【令和元年9月2日（月）】



手織り布「クロマ」に販入る鹿児島の中高生  
〔7月24日、カンボジア・プノンペン〕

## カンボジア 散歩

鹿県中高生の

④

## 市場で駆け引き挑戦

雑然とした市場に飲食店やみやげ物店が所狭しと並び、活気にあふれるセントラルマーケット。値引き交渉ができる、

伝統の手織り布「クロマ」が人気だ。鹿児島の中高生も「もう少し安くして」と駆け引きを楽しんだ。

＝随時掲載

**南日本新聞**  
【令和元年9月5日（木）】

優雅な舞を披露するタトラヴ村の娘たち  
＝7月25日、カンボジア・シェムリアップ州



**カンボジア  
散歩**  


⑤

### 神への舞 優雅さ魅了

9世紀頃に宮廷舞踊として生まれた「アプサラ（天使・天女）の踊り」。神にささげる舞で、反り返った手や指の動きが美しい。ホームステイ先の村ではお別れ会に娘らが披露し、中高生らは優雅さに見とれた。

=おわり=

# 「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の概要

鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

## 1 趣 旨

鹿児島県の青少年を開発途上国に派遣し、そこの国づくりに貢献している青年海外協力隊員の活動現場の視察や現地での協力活動を行うことで、国際協力に対する理解を深めるとともにホームステイや学校、施設などの交流を通して相互理解を深め、国際性豊かな人材を育成する。

また、派遣後は、これらの体験を報告会などを通して学校や地元に還元し地域レベルでの国際化に寄与するものとする。

## 2 事業主体

主催：「鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会」

※構成団体：鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

青年海外協力隊鹿児島県OB会

公益財団法人鹿児島県国際交流協会

共催：鹿児島県内の関係市町村

後援：独立行政法人国際協力機構九州センター、鹿児島県、鹿児島県教育委員会

協賛：鹿児島県内の企業

## 3 派遣先

派遣国はアジア諸国を対象とする（実績は別紙参照）

## 4 派遣者

参加者：県内各地から募集・選考した10～20名の中学生、高校生、専門学校生

同行者：実行委員会関係者と新聞社、テレビ局など報道関係者

共催市町村職員

## 5 実施時期

7月下旬～8月上旬の間の1週間程度

派遣の前後に事前研修会、報告会なども実施

## 6 経費

この事業の実施に要する経費は、実行委員会の構成団体、協賛企業、共催者（参加者に対する助成金による方法を含む）及び参加者が負担する。

# 「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の実績

	派遣国(地域)	派遣期間	人数 (生徒数)	参加者の出身市町村・共催市町村	備考
第1回	マレーシア (コタキナバル、セラマドゥ)	平成3年 3/27(水)~4/3(水) (7泊8日)	17名 (10)	鹿児島市、阿久根市、名瀬市、市来町、伊集院町、祁答院町、内之浦町、佐多町	公募
第2回	マレーシア (スマラバヤ)	平成4年 3/27(金)~4/3(金) (7泊8日)	17名 (10)	鹿児島市、鹿屋市、大口市、指宿市、隼人町	公募
第3回	マレーシア (クアラルンプール)	平成5年 7/23(金)~7/30(金) (7泊8日)	17名 (10)	鹿児島市、加世田市、三島村、隼人町、志布志町、高山町	公募
第4回	インドネシア (バンドン、バトミルカット)	平成6年 8/1(月)~8/7(日) (6泊7日)	15名 (9)	鹿児島市、出水市、指宿市、垂水市、菱刈町、霧島町	公募
第5回	マレーシア (コタキナバル)	平成7年 7/30(日)~8/6(日) (7泊8日)	16名 (10)	鹿児島市、国分市、頴娃町、宮之城町、隼人町、吾平町、根占町、中種子町	公募
第6回	マレーシア (タビン、バリットムントリ-)	平成9年 7/27(日)~8/3(日) (7泊8日)	16名 (11)	鹿児島市、串木野市、東市来町、伊集院町、郡山町、吉田町、吹上町、金峰町	市町村推薦
第7回	マレーシア (クアラルンプール)	平成10年 7/26(日)~8/2(日) (7泊8日)	25名 (20)	鹿児島市、大口市、国分市、菱刈町、始良町、蒲生町、溝辺町、横川町、栗野町、吉松町、牧園町、隼人町、福山町	市町村推薦
第8回	タイ (ユタヤ、ルンガオ)	平成11年 7/30(金)~8/5(木) (6泊7日)	14名 (9)	鹿児島市、指宿市、加世田市、喜入町、笠沙町、知覧町	市町村推薦
第9回	タイ (エンマイ、メカボン)	平成12年 7/24(日)~7/31(月) (7泊8日)	20名 (14)	鹿児島市、鹿屋市、国分市、垂水市、祁答院町、財部町、末吉町、串良町	市町村推薦
第10回	ベトナム (ホーチミン、ノイバイ)	平成13年 7/20(金)~7/26(木) (6泊7日)	19名 (13)	鹿児島市、出水市、加世田市、国分市、垂水市、祁答院町、溝辺町	市町村推薦
第11回	ベトナム (ホーチミン、タニソン)	平成14年 8/4(金)~8/10(木) (6泊7日)	17名 (11)	鹿児島市、串木野市、枕崎市、国分市、垂水市、溝辺町	市町村推薦
第12回	タイ (ナコンチャヤー県を予定していた)	平成15年度 SARS及び鳥インフルエンザの影響により中止			市町村推薦
第13回	マレーシア (クラランブル、ラカウ市、トリカヌ州)	平成16年 7/19(月)~7/26(月) (7泊8日)	13名 (9)	鹿児島市、枕崎市、国分市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第14回	ベトナム (ハノイ、ホーチミン省モーハイ村)	平成17年 7/24(日)~7/31(日) (7泊8日)	20名 (14)	鹿児島市、枕崎市、串木野市、国分市、知覧町、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第15回	マレーシア (クラランブル、ラカウ市、サバ州)	平成18年 7/22(土)~7/29(土) (7泊8日)	18名 (12)	鹿児島市、枕崎市、霧島市、知覧町、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第16回	ベトナム (ハノイ、ハノイ省、ハッセン省)	平成19年 7/22(日)~7/29(日) (7泊8日)	23名 (17)	鹿児島市、枕崎市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、知覧町、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第17回	ラオス (ビエンチャン県ボンミー村)	平成20年 7/20(日)~7/27日(日) (7泊8日)	20名 (14)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第18回	ラオス (ビエンチャン県ナーツ村)	平成21年 7/19(日)~7/26日(日) (7泊8日)	18名 (14)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第19回	インドネシア (南スラウェシ州バガサ村)	平成22年 8/1(日)~8/8(日) (7泊8日)	19名 (13)	鹿児島市、鹿屋市、霧島市、南九州市、南さつま市、枕崎市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第20回	マレーシア (クラランブルバトミンガ村)	平成23年 7/24(日)~7/31(日) (7泊8日)	22名 (16)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第21回	ベトナム (ホーチミン市、ティエゲン省ガイント村)	平成24年 7/22(日)~7/29(日) (7泊8日)	22名 (16)	鹿児島市、鹿屋市、霧島市、南九州市、南さつま市、枕崎市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第22回	ベトナム (ダナン市、ホーチミン市)	平成25年 7/21(日)~7/28(日) (7泊8日)	23名 (17)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第23回	カンボジア (プノンペン、バッタムアン)	平成26年 7/20(日)~7/27(日) (7泊8日)	23名 (16)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第24回	カンボジア (プノンペン、カンダール)	平成27年 7/19(日)~7/26(日) (7泊8日)	22名 (16)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第25回	ラオス (ビエンチャン都、ビエンチャン県)	平成28年 7/24(日)~7/31(日) (7泊8日)	20名 (14)	鹿児島市、鹿屋市、霧島市、南さつま市、南九州市、枕崎市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第26回	ラオス (ビエンチャン都、ビエンチャン県)	平成29年 7/23(日)~7/30(日) (7泊8日)	22名 (16)	鹿児島市、鹿屋市、霧島市、いちき串木野市、南九州市、南さつま市、枕崎市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第27回	スリランカ (西部州、ガンバハ県)	平成30年 7/25(水)~8/1(水) (7泊8日)	21名 (15)	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、霧島市、南九州市、南さつま市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
第28回	カンボジア (プノンペン、シェムリアップ)	令和元年 7/21(日)~7/28(日) (7泊8日)	21名 (15)	鹿児島市、鹿屋市、霧島市、いちき串木野市、南九州市、南さつま市、枕崎市、実行委員会枠	市町村推薦 実行委員会推薦
	計7カ国	計(361) 平均13人			



=編集・発行=

## 鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町 14-50

かごしま県民交流センター 1階

公益財団法人鹿児島県国際交流協会内

担当：新井 博美、外西 朋子

TEL : 099-221-6620 FAX:099-221-6643

裏表紙デザイン： 岩田 胡桃（串木野中学校 1年）